

新地方公会計制度による4つの財務諸表を公表します

市では、平成20年度決算分から、総務省から示された基準モデル方式により、4つの財務諸表(貸借対照表、純資産変動計算書、資金収支計算書、行政コスト計算書)を一般会計のほか企業会計などと連結して作成しています。平成21年度決算分を作成しましたので、その内容を公表します。

連結の
範囲

一般会計、特別会計、水道企業会計、土地開発公社、高浜市総合サービス(株)を連結しています。

【連結貸借対照表】

市にどれだけの財産があるか、その内訳はどのようなものなのかを表しています。

資産の部(これまで積み上げてきた資産)	負債の部(将来世代が負担する金額)
①金融資産…………… 74.3億円 (預金、未収金など)	①地方債……………208.9億円
②事業用資産……………478.5億円 (市役所、学校などの土地・建物など)	②借入金…………… 2.7億円
③インフラ資産…………… 780.8億円 (道路、上下水道、橋などの土地・設備など)	③退職給付引当金…………… 26.6億円
	④その他…………… 7.7億円
	負債合計 245.9億円
	純資産の部(現在までの世代が負担した金額)
	純資産合計 1,087.7億円
資産合計 1,333.6億円	負債および純資産合計 1,333.6億円

【連結資金収支計算書】

現金の流れを示すものであり、その収支を性質に応じて、区分して表示することで、市がどのような活動に資金を使ったかを表しています。

平成21年度期首残高	21.2億円
①経常的収支…………… 11.0億円 (行政サービス実施による収支)	
②資本的収支…………… ▲8.9億円 (固定資産の購入売却による収支)	
③財務的収支…………… ▲4.8億円 (借入・返済による収支)	
当期収支額(①-②-③)……………	▲2.7億円
平成21年度期末残高	18.5億円

【連結純資産変動計算書】

貸借対照表に計上されている純資産が、1年間でどのように増減したかを表しています。

純資産の増減は、将来サービスに対する蓄えの増減を意味します。

平成21年度期首残高	1,104.4億円
①純資産の増加…………… 191.7億円 (税金、国・県などからの補助金)	
②純資産の減少…………… 208.4億円 (資産の減価償却、純行政コスト)	
当期変動額(①-②)……………	▲16.7億円
平成21年度期末残高	1,087.7億円

【平成21年度決算分に基づく市民一人あたりの換算額】(平成22年3月31日現在人口:45,114人)

市民一人当たりの資産	約295万円	市民一人当たりの負債	約55万円
1,333.6億円÷45,114人		245.9億円÷45,114人	
市民一人当たりの純資産	約241万円	市民一人当たりが受けた行政サービス費	約38万円
1,087.7億円÷45,114人		169.2億円÷45,114人	